

令和4年度 久山町行政評価外部評価対象事業結果報告書（令和3年度事務事業）

<評価基準>

A 重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)

B 現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)

C 見直し

D 廃止

E 完了

| | 事業名 | 外部評価委員の評価 | 経営者会議の結果 | 各課の令和5年度の取り組み |
|---|---------------------------|---|--|--|
| 1 | 幼稚園預かり保育事業 【教育課】 | B <ul style="list-style-type: none"> ・町の人口が増え、働く女性が増える事で、預かり保育のニーズは高まる事が予想される中で、本事業の重要性は高い。 ・更なるサービス向上のひとつとして、保育時間の延長を行うべきではないか。 ・利用者は増えていくと予想される中で、保護者へのアンケート等を実施して、満足度をはかる必要があるのではないか。 ・コロナ禍や、全国で起こる保育に関する事故による利用者の不安を把握する意味でも、アンケートを実施することが必要ではないか。 | B <p>山田・久原両幼稚園がけやきの森幼稚園に統合された平成30年度から幼稚園の預かり保育を開始し現在5年目の事業である。令和3年度の実績として通年で57名の園児を保育しているが、これは園児全体の約40%にあたり、保護者の働き方が多様化していく中でニーズの高い事業だといえる。</p> <p>開園後当面の間は利用者数の増加を目標としてきたが、今後17時までの保育時間を延長することも含めた預かり保育事業の改善を行うことで、幼稚園入園者数の増加や待機児童の解消につながる事も目指して事業を実施していく必要がある。</p> <p>本事業の改善案の一つとして、保育時間の延長を検討するが、現在預かり保育を利用している方に保育時間の延長が必要かどうかの調査を行ったうえで、保育時間の延長について前向きに検討を行う。</p> <p>調査結果を踏まえ、体制等運営の見直し及び費用対効果について十分に検討したうえで実施することとする。</p> <p>今後の方向性：現状のまま維持</p> | <p>預かり保育事業は、保護者の働き方が多様化する社会の中で大変ニーズの高い事業と考え、今後も内容等を充実させていながら運営を続けていく。</p> <p>令和4年秋に実施した利用者へのアンケートの結果からも事業に対する満足度も高く必要性があることも把握できた。また、保育時間については利用者の32%から延長の要望が出ており、保育時間の延長を行うことにより現利用者の満足度の向上はもとより、未利用者が当事業を利用するきっかけになることも考えられ、ひいては幼稚園の利用者も増えていき運営に大きなメリットがあると考えられる。</p> <p>ただし、運営体制については、スタッフの配置など効率のよい事業運営や職員の働き方改革の観点から、民間事業者による運営が必要と考え、令和5年度には預かり保育事業の業務委託費について予算要求を行うこととする。</p> |
| 2 | 地域学校協働活動推進事業 【教育課】 | B <ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が一体となった素晴らしい事業である。 ・協力委員の確保が難しいということも理解できる一方で、高齢のボランティアスタッフにとって、本活動が喜びとなっていることも大きいと思う。もっと町民のご協力を得て推進して頂きたい。 ・ボランティアスタッフの拡充が前提ではあるが、英語など、子どもたちの将来のために興味を持ってもらうきっかけとして様々な知識を提供できないか。 ・成功事例の共有やスタッフの若返りをはかることで、若い層の横の繋がりができ、コミュニティの活性化につながるのではないか。 ・事業に参加されているボランティアスタッフにもアンケート等を実施してご意見を伺ってはどうか。 | B <p>本事業は学校を取り巻く環境の複雑化等により発生する課題の解決に向けて、地域と学校がパートナーとして連携を行う重要な事業である。中でも久山町は本事業に先進的に取り組んでいるが、今後コミュニティスクールの発足等を視野に、更なる事業の拡大を図るにあたり、人材の掘り起こしが課題となっている。</p> <p>本課題を解決するため、教育委員会だけでなく、庁内全体で本事業の内容・課題の共有を行い、広く人材を確保していく。また、学校と推進委員との連携を図り、ボランティアスタッフの意見を取り入れながら活動しやすい体制を整え、スタッフの確保に繋げていく。</p> <p>今後の方向性：現状のまま維持</p> | <p>学校だけでは解決できない課題が増加してきている中で、地域の支えにより解決につなげ、教職員の負担軽減と子ども達の学習環境の充実を図るために必要な事業である。また、令和5年度から各学校で予定しているコミュニティ・スクールの発足を行う上でも必要な事業である。</p> <p>今年度は推進委員の充実を図って事業を行っていることから、多くの地域の方が学校へ関わっていただいている。</p> <p>今後も引き続き、事業の有効性を広く周知するとともに、庁内でも事業の内容・課題の共有を行い、新たなボランティアの発掘や地域の人材確保に努めていく。</p> <p>また現在、関わっていただいている方を対象に、事業の進め方や満足度等についてアンケート調査等により意見を伺うなどして、当事業の改善も併せて行っていく。</p> |

<評価基準>

- A 重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)
 B 現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)

- C 見直し
 D 廃止
 E 完了

| | 事業名 | 外部評価委員の評価 | 経営者会議の結果 | 各課の令和5年度の取り組み |
|---|-------------------------|---|---|---|
| 3 | ライブラリー事業 【健康課】 | C ・実施されている内容は素晴らしいと思うが、それをどう町民の方に見せるのか、効果的な周知方法を検討すべき。 ・目的と実際の事業との関連性が分かりにくい。目的に合わせた指標の設定が必要ではないか。 ・久山町の今までの健康への取組を紹介することなら、Web等だけでも良いかもしれない。でもそうされてないのは、久山町としての想いや願いが違うところにあるからか。 | B 本町は、「国土の健康」「社会の健康」「人間の健康」の3つの健康づくりをまちづくりの基本理念にかかげ、さまざまな政策に取り組んできた。その中で本事業は、生活習慣病予防健診の次のステップとして、食や体験を通して自分の健康づくり(セルフケア)に関心を持っていただき、日々の生活をより豊かに過ごすことにつなげることを目的に実施している。 転入者が本事業をきっかけに生活習慣病予防健診を受診するなど健康づくりに関心を持っていただき行動に繋がった実績もある中で、外部評価委員会での評価がCという結果になったのは、本事業の目的を外部評価委員会に伝えることができなかったためと考えられる。本事業の目的を果たすためにも、今後もダイニング&ワークショップ等幅広い年代が参加できる事業に取り組み、令和3年度に策定した健康情報発信戦略計画をもとに、全庁一体となって効果的に町民に対してセルフケアに繋がる情報発信や町外へ向けた町の魅力発信を行っていく。 今後の方向性：現状のまま維持 | 今後も生活習慣病予防健診の次のステップとして、町民が健康づくり(セルフケア)に関心を持ち実行するため、健康や食等に関連するひさやま健康セミナーの開催を継続していく。さらに、経営デザイン課と連携し、幅広い世代が参加できるダイニング&ワークショップ等を開催し、「久山町健康情報戦略計画」をもとに全庁一体となって健康に関する情報を発信していく。 また、町民が事業に参加することで、健康づくりに興味を持ったのかという成果を指標化し、今後の事業展開に繋げるため、健診時の聞き取り調査事項に、健診受診のきっかけ欄を追記する。 |
| 4 | 公園施設管理事業 【都市整備課】 | B ・利用する町民の要望等を反映できる仕組みを構築する必要があるのではないか。 ・本事業は維持管理、改修が基本となるが、更に住民の要望(児童公園においては学校を經由して児童や保護者)調査をしてはどうか。 ・老朽化等による維持管理経費はかかってくるだろうが、安全面を考慮すれば必要な経費であるため、安全面を第一に事業を推進してもらいたい。 | B 地域の児童公園については、ラブアースや道路愛護デー等で町民の皆さまの協力を得ながら管理を行っている。また、公園遊具に関する町民のニーズは高く、令和元年度から設置を進めてきた。安心して遊ぶことができ、安全が確保できる公園であるために公園管理事業の重要度は高い。今後は以下の点を考慮したうえで事業を継続していく。 ・遊具については、ライフサイクルコストを把握した上で、メンテナンス計画を立て、定期的な点検を実施することで、安心、安全の確保に努めるとともに、遊具の長寿命化を図っていく。 ・要望に関しては、個人の要望ではなく、行政区の要望について費用対効果も考慮し実施していく。 今後の方向性：現状のまま維持 | 遊具に関しては、安全に利用するという事が最優先であるため、成果指標は事故発生件数とし、事故発生件数0件を維持していくための活動指標として、適正な管理を行った割合及び行政区の要望について対応した割合を計上する。 また、管理方法に関しては、毎年実施している点検に基づくメンテナンス計画に基づき、修繕及び大規模改修を計画的に実施し、長寿命化を図っていく。 |

<評価基準>

A 重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)

B 現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)

C 見直し

D 廃止

E 完了

| | 事業名 | 外部評価委員の評価 | 経営者会議の結果 | 各課の令和5年度の取り組み |
|---|----------------------------------|--|--|---|
| 5 | 公有財産 (普通財産) 処分事業 【総務課】 | B <ul style="list-style-type: none"> 普通財産の維持管理費の削減を行う上でも、売却を進めていく必要がある。 売却が難しい性質の土地が町有地として残っているという現状は理解できたが、売却ができない土地については、公で利用するなどの手段を考えていく必要があるのではないか。 処分していく必要はあるが、処分相手等は考慮してもらい、地域の活性化につながる処分を行ってほしい。 | B 普通財産の処分事業は、財源確保および維持管理費の削減のため、今後も進めていくべきであると判断するが、売却困難な土地も多く、売却や維持管理を行っていく上で課題があるのが現状である。そのため、本事業について、以下の通り改善していく。 <ul style="list-style-type: none"> 売却が進まない土地は、PR方法を検討し、売却が不可能な土地については使用貸借の締結を行うなど、管理費の縮減を行う。 売却の際、土地利用計画に則した土地活用が基本となるが、居住環境を阻害し町民の皆さまが不利益を被る可能性がある場合には慎重に判断する。 今後の方向性：現状のまま維持 | 現在普通財産については、売却の可否にかかわらず、管理協定などを締結することにより維持管理費の軽減を行っている。 他課を交え、それぞれが行う事業において町有地の活用ができないか検討し、有効利用を図る。 なお、売却については実現可能な売却計画を立てるとともに、入札を実施する際には、売却対象資産の明示を早期に行うなどし、周知の徹底を図る。 |